

## 児童生徒の豊かな人間性の育成

—地域との連携を深める取組を通して—

佐賀県鳥栖基山地区教頭会 鳥栖市立田代中学校 末次知子

### 1 主題設定の理由

佐賀県の東端に位置している鳥栖基山地区は、九州における交通の要衝であり、工場や倉庫が多く、物流の拠点になっている。地区内には、市町立小学校が10校、中学校が5校あり、児童数5600名、生徒数2538名（令和2年5月1日現在）である。

小学校で令和2年度から、中学校では令和3年度から実施される新学習指導要領の大きな柱として、「社会に開かれた教育課程」の編成がある。これを見据え、鳥栖基山地区では、平成30年度から基里中学校区、令和2年度から鳥栖中学校区がコミュニティ・スクールとなり、今後、全ての鳥栖基山地区の中学校区で、学校運営協議会が設置される予定である。

このような時勢の中で、鳥栖基山地区小中学校で、更なる地域との連携を図りながら、学校運営を行い、児童生徒の成長を目指すことにした。地域連携は児童生徒にどのような教育効果があるのか、また、教頭として地域連携にどのように関わっていくのかについて、鳥栖基山地区教頭会が一体となって共同で実践を行い、研究を進めていくこととした。

### 2 研究のねらい

育成すべき資質・能力を明確にした上で、児童生徒の発達を図るべく、地域との連携や協働を推進するための内容と方法、及び教頭としての関わり方を明らかにする。

### 3 研究の経過

#### (1) 令和元年度

第12期の研究の方向性に関する協議

#### (2) 令和2年度

研究テーマ、研究内容に関する協議

研究テーマ及び内容に関する確認と研究

紀要の原稿に関する協議

### 4 研究の概要

鳥栖基山地区の市町の育てたい児童生徒像や

まちづくりを明らかにし、これまでの5つの中学校区の取組をまとめた。その際、先行してコミュニティ・スクールに取り組んだ基里中学校区と鳥栖中学校区を重点化した。そして、地域連携に係る教頭の関わりを具体的に挙げながら、取組の成果と今後の課題について共有した。

#### (1) 育てたい児童生徒像、まちづくり

鳥栖市では教科「日本語」の取組を中心とした小中一貫教育を通して、基山町では、社会総がかりで、豊かな人間性を育むことを目指している。

#### (2) 各中学校区における地域連携の取組

小学校では、主に生活科や家庭科、鳥栖市の教科「日本語」における体験活動を実施する際のゲストティーチャーとしての活用、登下校時の安全対策、学校行事の運営について連携した取組を行っている。中学校では、職場体験学習や部活動指導員、課外での学習会や環境整備を行ってきた。主に授業における教育活動で連携している小学校と、授業以外で連携している中学校との違いが明確になった。

#### (3) コミュニティ・スクールを先行して実施した2中学校区の取組

平成30年度から先行して取り組んだ基里中学校区では、地域の見守り活動を発足させるなど、地域における児童生徒の安全や健全育成を目指した。また、地域の様々な組織との連携を図り、民生委員・児童委員協議会と児童との交流や老人クラブからの協力を得た学校行事の実施を行った。

令和2年度から取り組んでいる鳥栖中学校区は、2つの小学校と1つの中学校からなる。それぞれの学校に設置された学校運営協議会において、前年度にどのような課題があるのか、どのような取組が考えられるのかについて意見を交換し、組織の在り方やおおまかな方向性について協議した。その上で「安全・安心な生活」「挨拶の輪を広げる」「親子・学校・地域で感謝」を目指す取組を中心とする



こととし、学校運営協議会の委員を選定した。

#### (4) 地域連携における教頭の関わり

##### ①地域との連絡調整

教頭は地域とのパイプ役となり、日程や内容等について連絡調整を行った。

##### ②連携当日の運営

地域と連携した様々な行事等において、教頭が当日の運営を行うことがあった。

##### ③地域連携に係る情報の管理

地域人材のリストを作成・更新したり、必要に応じ職員に提供したりした。また、連携後は、課題等を整理し、次回以降の活動に生きるよう記録を整理しておいた。

#### (5) コミュニティ・スクールについての研修を教頭会で実施

令和元年度までの研究を踏まえ、令和2年度では、今後の各学校での研究推進や取組の充実を図るために、コミュニティ・スクールのねらいや意義について、鳥栖市教育委員会の指導主事を講師に迎え、教頭会で研修会を実施した。

今後、取り組むべき事項として、次の3点を確認した。①学校と地域の連携を深め、児童生徒に地域の方々に見守られている意識及び感謝の気持ちを育む。②学校と地域とで双方向の人の関わりを充実させ、地域からの教育活動へのサポート及び地域行事への児童生徒の積極的な参加を促す。③地域や保護者からの要望を学校に集中させるのではなく、それぞれの課題について協働して取り組む。

また、研修後の協議において「学校と地域が相互に成果が得られる関係にならないとうまくいかない印象があった」「佐賀県教育施策実践計画に挙げられている『志を高める教育の推進』を行うためにも、地域を大切にする事例として、基里中校区の『しゃべり場』、教科『日本語』、『基山学』等の取組で、地域の教育力を学校教育に生かす必要がある」「鳥栖市も基山町も『郷土愛を育む』教育を大切にしているので義務教育9年間で地域とともに育てていくスタンスを伝えられるとよい」といった意見が出され、現在行っている教育活動を基に取り組むことで、児童生徒が地域の方々のことを知ったり、意識したりすることができることを確認した。

## 5 研究の成果と課題

### 〈成果〉

- 鳥栖基山地区における各学校の地域連携の取組をデータとして集約し、共有することにより、他校の実践を自校の取組に生かすことができるようになった。
- 基里中学校区の取組から、各団体との年間の見直しをもった活動ができること、地域の方との触れあいを通して、児童生徒の地域理解が深まっていること、地域の方に協力していただくことで、職員の負担軽減につながっていることが明らかになった。
- 地域連携から一步進めたコミュニティ・スクールの取組、また、コミュニティ・スクール立ち上げ時の取組や留意点等を共有することにより、今後、鳥栖基山全中学校区で取り入れられるコミュニティ・スクールの取組の充実と円滑な立ち上げに向けた工程が明らかになった。
- 教頭会での研修会の実施で、児童生徒のコミュニティ・スクールに関わる組織を円滑に運営する推進者としての教頭の役割を明確にすることができた。

### 〈課題〉

- 鳥栖市で育てたい児童生徒像、基山町の目指すまちづくりに向かって、地域連携やコミュニティ・スクールで取り組むべき内容の方向性を検討してきたが、活動の焦点化や活性化、また、育成すべき資質や能力を明確にし、取組を検証していくことが必要である。
- 基里中学校区の取組から、コミュニティ・スクールに協力してくださる地域の方々の組織化を図ること、学校運営協議会委員の増員を市に働きかけていくこと、PTAの援助に頼らない活動資金を捻出していくことが課題として見えてきた。
- 今後、育てたい児童生徒像及びまちづくりに迫るため、学校運営協議会にできること、教頭としての関わり方、そして、児童生徒をどのように変容させていくのかをさらに明らかにしていく必要がある。

第1A

第1B

第2

第3

第4

第5A

第5B

第6

特I

特II